

# 熊本県の「GDP 6 兆円」を維持する

## 第2章（全2章）

### ～その意義と解決のプロセス～

#### はじめに

人口減少、地震・水害、コロナ禍、カーボンニュートラル…。

これまで経験したことの無い様々な変動が一気に沸き起こり、地方経済社会を変容させ、我々の事業活動に大きな影響を与えている。どの様に対処すれば良いのか？

そのプロセスとして、第1章（前号）に於いて、足元の状況と、そこにある課題について、マクロの視点（GDPの推移）から俯瞰した。

本号では、現時点の「GDP 6 兆円」を維持する意義を考察し、解決のプロセスを探りたい。

#### <本レポートの構成>

##### 第1章（前号）

「GDP 6 兆円」の現状と課題

##### 第2章（本号）

「GDP 6 兆円」を維持する

紹介：年間12兆ドル（1,300兆円）を上回る「SDGs新市場」

#### <第1章（前号）の要約>

##### 1. 現状（2009～2018年度の比較）

(1)熊本県のGDPは、約10年間で15.0%成長し、6兆円の大台に乗った。

しかし、一方では県際収支（貿易収支と同義）が△1.4兆円と、同期間に5倍近く拡大。

(2)その要因は、建設業（復興需要）と高齢化に伴う医療・福祉への需要増加が、移輸入を大きく誘発した。

特に、飲食料品の移輸入が、幅広い需要分野から誘発されている点が注目される。

##### 2. 課題

(1)生産の主体を、地場企業と県外企業とに分けると、生産の伸びの多くの部分を県外企業が担っている。伸びが大きいのは、商業、対事業所・対個人サービス業など。

(2)雇用者所得も伸び、飲食料品に対する需要が増加したが、県内生産はほとんど伸びておらず、移輸入で賄った。

ちなみに、本県の飲食料品の出荷額0.4兆円は、鹿児島県1.2兆円の1/3程度である。

(3)また、耕種農業と飲食料品やその他の県内産業との取引関係も、鹿児島県の1/3程度。

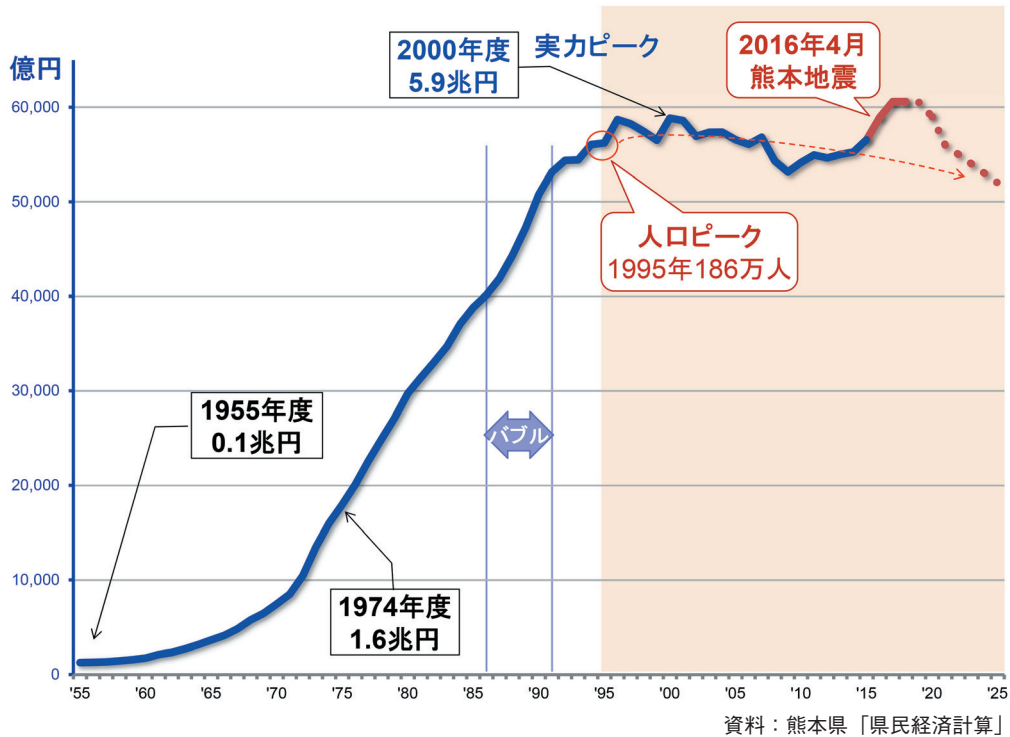
**☞ 地場企業が主体となり、県内需要に応え、地元取引を拡大することが課題。**

# 1 「GDP 6兆円」を維持する意義

## (1) 1995年以降の大きな変動

- 熊本県のGDPは、1990年代半ばからゼロ成長となり、人口減少に伴って、既に、マイナス基調に入っている可能性がある。(図表1)
- この大きな変動が生じた当時、それを見抜き、‘後戻りすることのない変化’と認識するのは難しかった。(図表2)

図表1 熊本県名目GDPの大変動



図表2 1995～2000年の主な出来事

西暦	「循環変動」「突発変動」と考えられた	
1995	1月：阪神淡路大震災 4月：為替79.8円⇒「世界の工場」が中国へ 固定費削減⇒人件費の変動費化(非正規雇用)	
1996	政府総債務残高がGDPを超える 「緩慢な景気回復」という認識が一般的に	
1997	山一証券破綻、三洋証券破綻、東食倒産 東証上場銀行の不良債権20兆円超 10年国債利回り2.0%を割る	
1998	日本長期信用銀行国有化 日本債券信用銀行国有化	失われた10年
1999	G20発足 消費者物価指数の下落が始まる	
2000	原油価格高騰が始まる	

資料：各種新聞記事等より

(2) 経済成長と生産年齢人口の関係

- 戦後の県内の経済成長と生産年齢人口の動きには強い相関があり、経済の動きに、概ね10～15年遅れて生産年齢人口がついて来ていた。
- ゼロ成長期に入る2000年前後から、その関係は崩れ、更に2015年以降は、生産年齢人口の減少が、経済成長鈍化に先行する時代に入っている様に見える。

<戦後の「傾向変動」>

生産年齢人口の増減率は、団塊の世代が生産年齢（15～64歳）に達し始めた1965年頃から増加に転じ、1980年代にピークアウトした。

低成長期は、経済成長鈍化が先行し、生産年齢人口の増減率も同じ角度で低下していく。

☞ 経済活動の鈍化（先行）⇒生産年齢人口の減少（追隨）

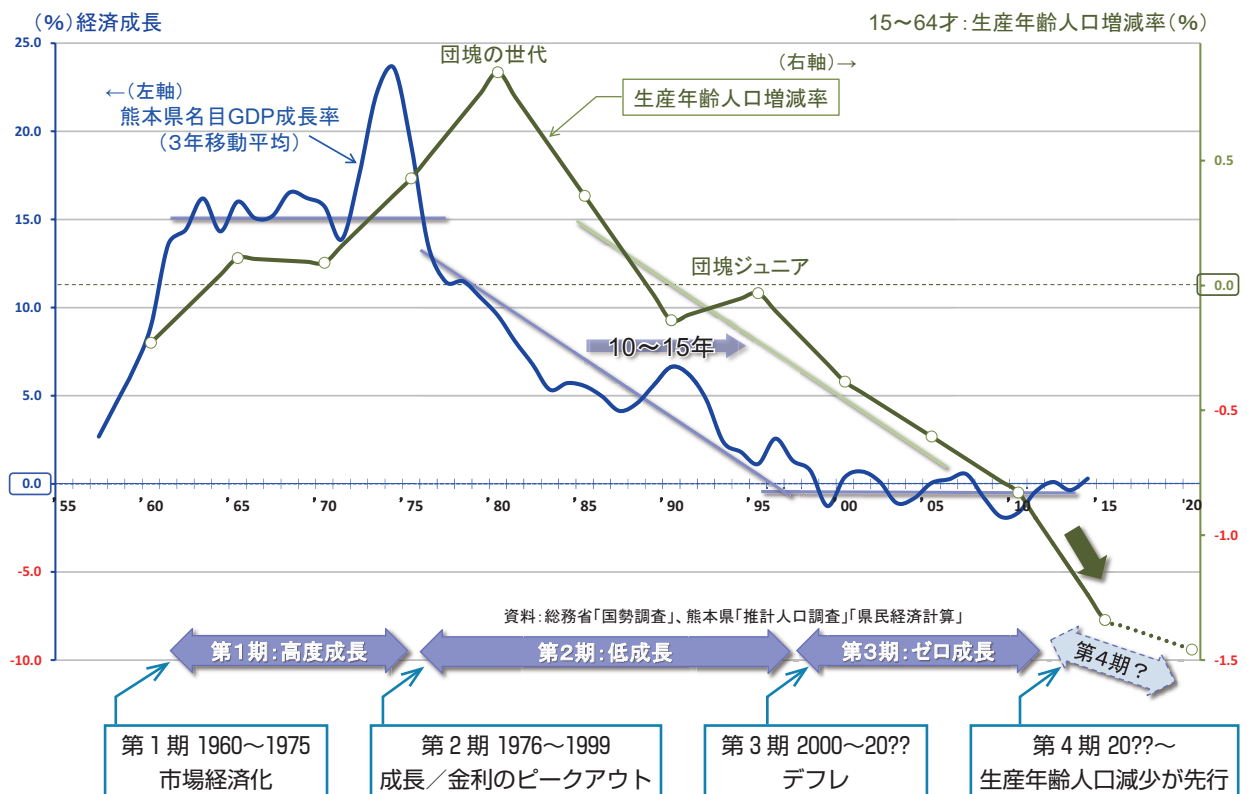
2000年頃からこの関係が崩れ、2015年以降は逆転か？

☞ 生産年齢人口の減少（先行）⇒経済活動の鈍化（追隨）

<「GDP6兆円」を維持する意義>

図表2（前頁）の後戻りしない大変動、そして図表3（下図）のゼロ成長メカニズムを、脱却する。

図表3 熊本県の経済成長と生産年齢人口の関係

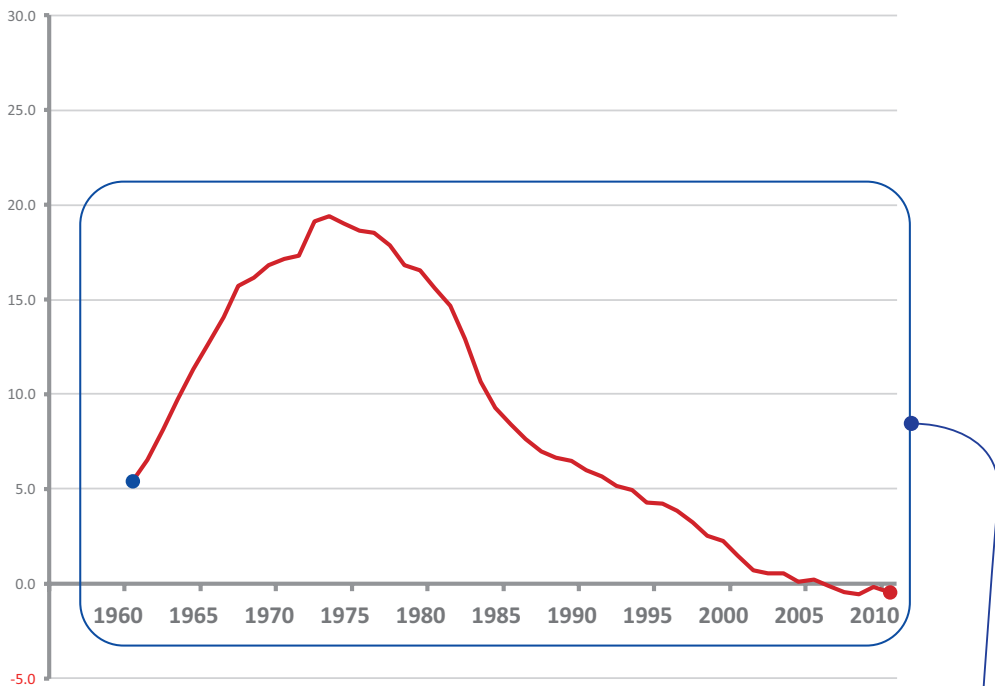


## 2 解決のプロセス

### (1) コンドラチェフの波

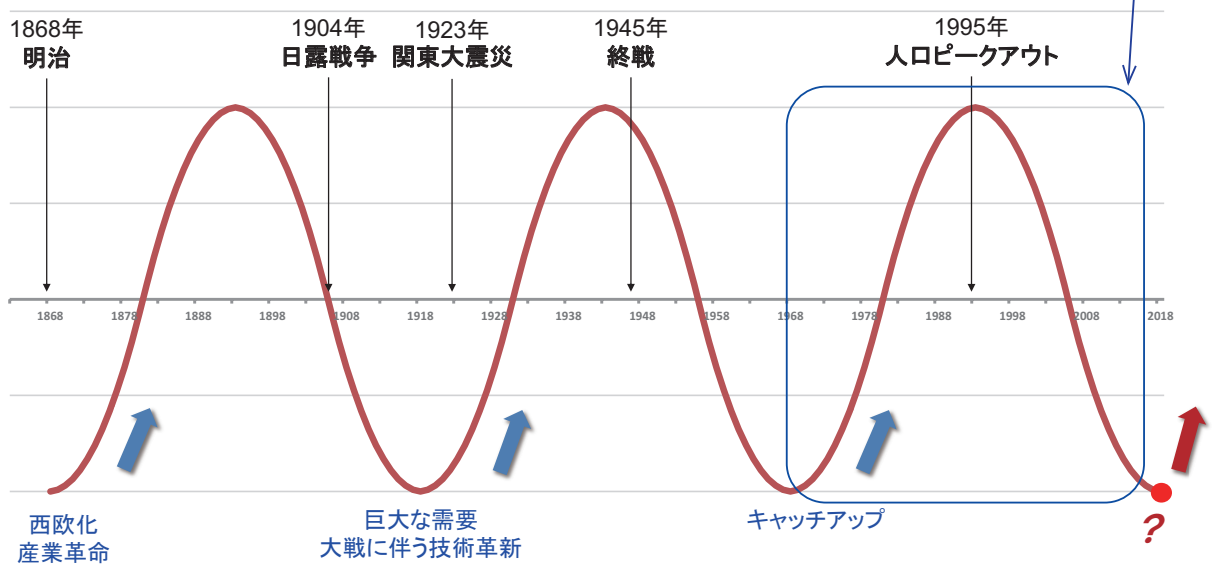
- 技術革新を主要因とした、50年周期（コンドラチェフ）の波があるとされている。
- この考え方に基づくと、現在は谷底に位置することになる。  
 ☞ だとすれば、今、起こりつつある‘上昇気流（技術革新）’は、何だろうか？

図表4 熊本県名目GDP成長率（10年移動平均）



資料：熊本県「県民経済計算」より

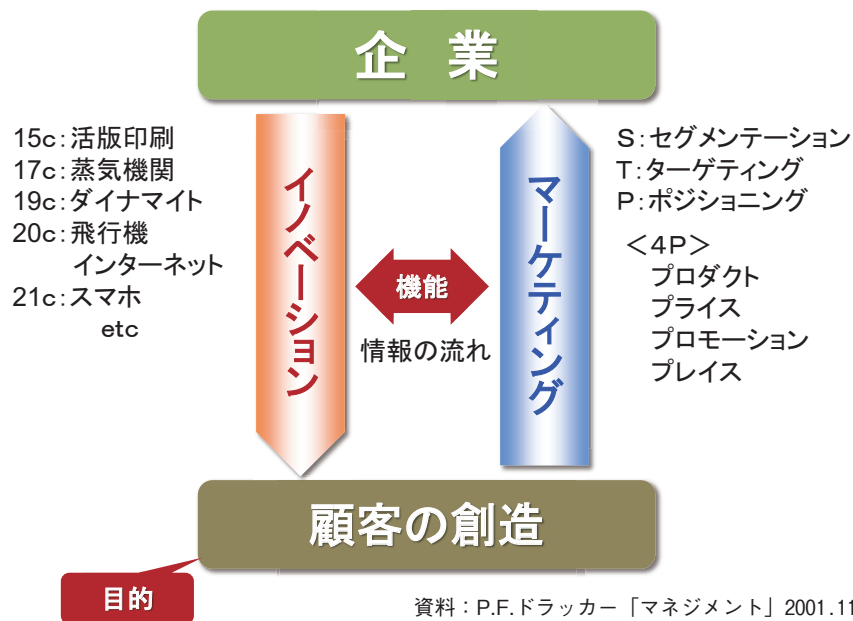
図表5 50年サイクルの循環変動（コンドラチェフの波）



(2) 上昇気流を掴む

- P.F.ドラッカーは、「マーケティングとマネジメントだけが、成果をもたらす。」と説く。マーケティングの起点は顧客に、イノベーションの起点は企業側にある。(図表6)
- 日本経済団体連合会(経団連)は、「革新的技術を活用して、経済発展と社会課題解決を両立する。」ことを提唱している。(図表7)

図表6 マーケティングでコロナ禍を生き残り、イノベーションで未来を拓く



資料：P.F.ドラッカー「マネジメント」2001.11を基に作成

※ 貴事業所には、ささやかに見えても、「これが、我々のイノベーションだ。」というものが有りますか？

図表7：Society 5.0 for SDGs (経団連 2019.5)



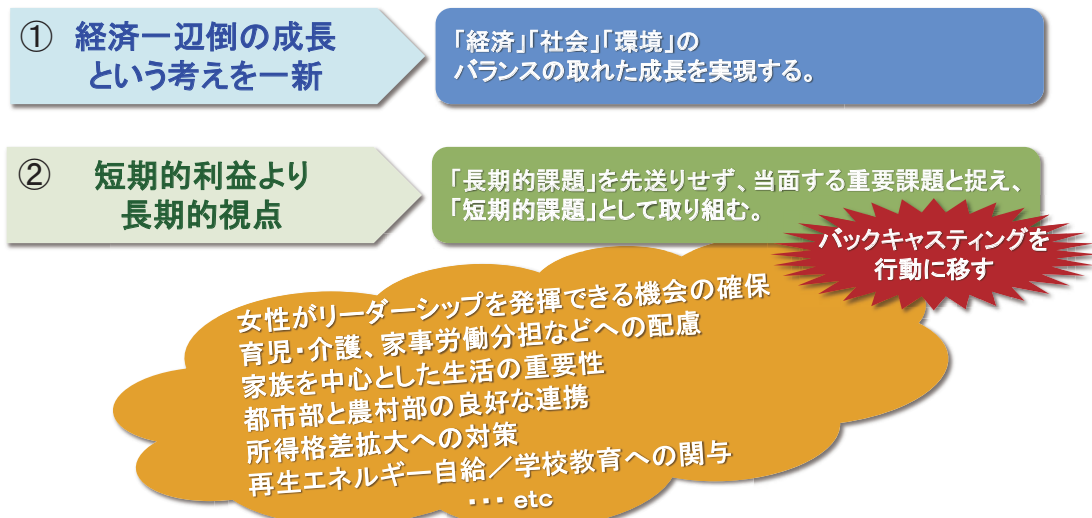
経団連は、SDGsの達成に向けて、革新技术を最大限活用することにより経済発展と社会的課題の解決の両立するコンセプト「Society 5.0」を提案します。

資料：経団連HP

(3)自然災害やコロナ禍を克服する ‘大きな方向性’

- 「SDG経営」を、事業経営の現場の視点から言い換えると、
  - ① 経済一辺倒の成長という考えを一新すること、
  - ② 長期的課題を短期的課題として取り組むこと、となる。(図表8)
- 当所は、国連のSDGコンパスを基に、「SDG経営」を支援している。(図表9)

図表8 二つの ‘大きな方向性’



☞ 慶応大学 蟹江教授が主催する「xSDG・ラボ」より。

図表9 「SDG経営」支援



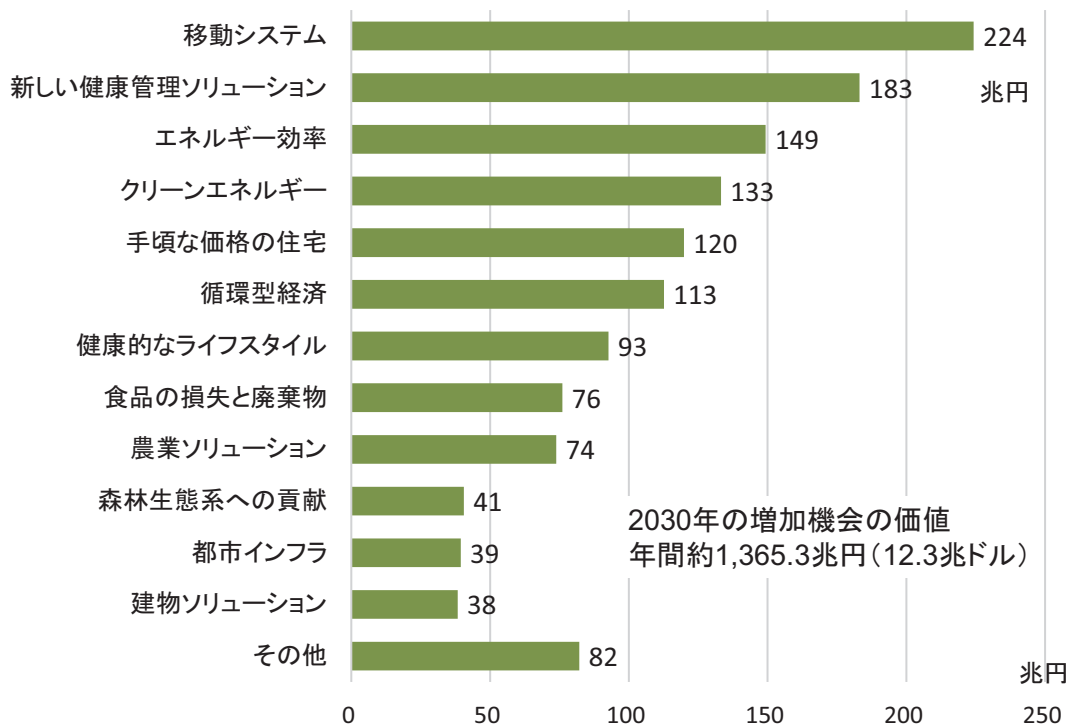


<最後に、ご紹介> 4つの領域に於ける60の超大型市場機会

「社会課題解決」そのものが、  
超大型市場機会と説く。

世界経済フォーラム (WEF)  
ビジネス&持続可能開発委員会 (BSDC) の報告書  
「Better Business, Better World」2017年1月 (全122ページ)

図表10 年間1,300兆円を上回る「SDGs新市場」



資料：Better Business, Better World p29

P28

60 biggest market opportunities related to delivering the Global Goals  
グローバル目標の達成に関する60の超大型市場機会

I. Food and Agriculture：食料と農業

1. Reducing food waste in value chain：バリューチェーンにおける食品廃棄物の削減
2. Forest ecosystem services：森林生態系への貢献 (牛肉、大豆、パーム油、紙/パルプの抑制)
3. Low-income food markets：低所得層の食品市場
4. Reducing consumer food waste：消費者の食品廃棄物の削減
5. Product reformulation：製品の再生利用
6. Technology in large-scale farms：大規模農場の生産技術
7. Dietary switch：食生活の転換
8. Sustainable aquaculture：持続可能な水産養殖
9. Technology in smallholder farms：小規模農家の生産技術
10. Micro-irrigation：(排水管等を活用した) マイクロ灌漑
11. Restoring degraded land：劣化した土地の復元
12. Reducing packaging waste：包装廃棄物の削減
13. Cattle intensification：牛の畜産の強化
14. Urban agriculture：都市部での農業

## II. Cities：市町村

1. Affordable housing：手頃な価格の住宅
2. Energy efficiency-buildings：エネルギー効率の良い建造物
3. Electric and hybrid vehicles：電気自動車およびハイブリッド車
4. Public transport in urban areas：都市部の公共交通機関
5. Car sharing：カー・シェアリング
6. Road safety equipment：交通安全装置
7. Autonomous vehicles：自動走行車
8. ICE vehicle fuel efficiency：ICE（内燃機関）車両の燃費
9. Building resilient cities：回復力のある市町村を構築する
10. Municipal water leakage：自治体上下水道の水漏れ
11. Cultural tourism：文化観光
12. Smart metering：スマートメータリング（使用電力量の自動計測）
13. Water and sanitation Infrastructure：水と衛生のインフラ
14. Office sharing：オフィス・シェアリング
15. Timber buildings：木造建築物
16. Durable and modular buildings：耐久性を備えたモジュール式の建造物

## III. Energy and Materials：エネルギーと原材料

1. Circular models-automotive：循環型自動車（生産・利用時の二酸化炭素排出を排除）
2. Expansion of renewables：再生可能エネルギーの拡大
3. Circular models-electronics：循環型の電子工学
4. Circular models - appliances：循環型の家庭用品
5. Energy efficiency - non - energy intensive industries：エネルギー効率・同非消費型産業
6. Energy storage systems：エネルギー貯蔵システム
7. Resource recovery：資源の回復
8. End-use steel efficiency：鉄鋼の最終利用の効率性
9. Energy efficiency - energy intensive industries：エネルギー効率・同多消費型産業
10. Carbon capture and storage：炭素の吸収と貯蔵
11. Energy access：エネルギーの利用方法
12. Green chemicals：環境保護に資する化学物質
13. Additive manufacturing：積層造形技術（3Dプリンティング技術）による製造方式
14. Local content in extractives：資源の現地調達
15. Shared infrastructure：公共施設の共有
16. Mine rehabilitation：鉱山の復元
17. Grid interconnection：送電網の相互接続

## IV. Health and Well-Being：健康と幸福

1. Risk pooling：保険制度によるリスク分散
2. Remote patient monitoring：遠隔患者モニタリング
3. Telehealth：遠隔医療
4. Advanced genomics：高度な遺伝子研究
5. Activity services：アクティビティ（心と体を活性化）サービス
6. Detection of counterfeit drugs：偽造医薬品の検出
7. Tobacco control：タバコのコントロール
8. Weight management programs：体重管理プログラム
9. Better disease management：より良い疾患管理
10. Electronic medical records：電子カルテ
11. Better maternal and child health：より良い母子の健康
12. Healthcare training：ヘルスケアトレーニング
13. Low-cost surgery：低コストの手術